



第40回日本小児皮膚科学会報告



2016.7/2-3 広島



① 乳児期の食物アレルギーと皮膚病変：

離乳食を早めに進めること、早期に皮膚の状態を改善させること（保湿剤や適切なステロイド）が重要。

② 食物アレルギーによる発疹の時の症状を和らげる薬物：

オロパタジン OD, アレロック OD, タリオン OD などの口の中ですみやかに溶けて吸収が早い薬物が良い。

③ TARC：アトピー性皮膚炎の病勢マーカー：

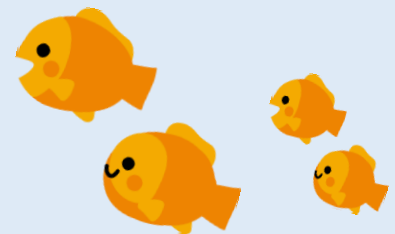
治療でアトピーが良くなるとともに数値が改善する。
（当院では現在行っておりませんが、導入を検討中です）



④ 単純性血管腫：

最近は＜毛細血管奇形＞に名称変更（まだ浸透していませんが）。レーザーの進歩が目覚ましく、ダイレーザーや V-beam がある。早期に治療した方が、効果が高い。2か月児でも適応がある。

（適切な医療機関を紹介しますので、ご相談ください。）



⑤ 扁平母斑：

長らくレーザー治療は効かないといわれていたが、アレックスレーザーで効果が出ることもある。小さいもの、辺縁がギザギザなもの、乳児期からの治療が効きやすい。



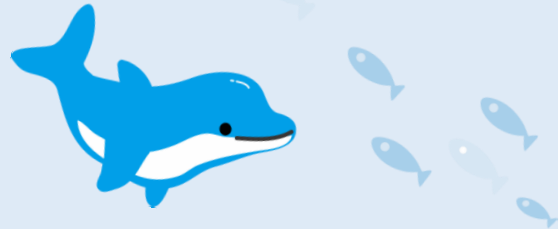


⑥ 花粉症と妊娠：

妊娠0-4週は all or none といわれ、正常胎児を得るか、流産するかのどちらか。薬物原因の奇形は実際には 1%以下。どうしても心配なら、妊娠がわかってから服薬を中止しても良い。抗ヒスタミン薬は基本的に妊娠中も OK だが、セルテクトは避けた方が無難。しかし、花粉症の症状で母体の体調が悪化するくらいなら、胎児への酸素不足のリスクもあるので服薬をお勧めします。

⑦ ヤクルト、乳酸菌、ビフィズス菌等（プロバイオティクスといいます）：

アトピー性皮膚炎予防に効果があるという報告があります。2歳までに経口抗生剤を使用する（短期間必要量使用する場合は除く）と上記菌が乱れ、7歳時点でのアレルギーが増えたとの報告あり。



⑧ 円形脱毛症の治療：

ステロイド局注、局所免疫療法がおこなわれているが、難治性。アトピー性皮膚炎が合併していることもある。塗り薬で効果が確認されているものはミノキシジル（リアップ）だけ。

⑨ 茶のしずく事件：

グルパール 19S という加水分解コムギが皮膚から侵入したため、アレルギー発症。はからずも、アレルギーの経皮からの侵入が重大であることの証明になってしまった。

⑩ 50歳以上の魚アレルギー：

アニサキス（寄生虫）によるものが多いので要注意。



平井こどもクリニック 院長 平井克明

